



1 基本的な考え方

①安全性
校舎内にスタッフは常駐しないため、事故や迷子、いたずらへの防止を図る観点から、公開範囲を限定する。また、落下物による事故を防ぐため、フェンスを設置する。

②メッセージ性
震災の脅威をより効果的に伝えるため、岩プロから入場し、そのまま遺構に入るようにする。また、安全面以外の目的の工作物は設置せず、震災直後の状態で保存することを基本とする。

③利便性
歩く距離を短くするため、駐車場、岩プロ、遺構を近づける。

④コスト(維持管理費)
清掃や補修など、定期的なメンテナンスが必要で、入館料に影響するため、公開範囲を限定する。

2 保存範囲

南校舎、北校舎(東側渡り廊下を除く)、総合実習棟(渡り廊下・車を含む)、生徒会館、屋内運動場

3 公開範囲

南校舎1階廊下、3階・4階の西側の一部、屋上、西側階段、職員通用口、屋外(フェンス内で中庭を含む)

- 4 見学ルート(案)
- ①【岩プロ】 チケット購入→受付・入館→津波の脅威を伝える震災時の映像を視聴(シアターA)→新設の渡り廊下(屋根・壁あり)を通り、南校舎へ
 - ②【震災遺構】 南校舎1階東側から入る→廊下から1階教室内部を見学→西側階段またはエレベーターを使用し、3階、4階、屋上を見学→屋上から1階に下がり、職員通用口を通り、屋外へ→フェンス越しに南校舎4階の壁、折り重なった車、体育館を見学→再度、職員通用口から中庭に入り、校舎の高さ(津波浸水高)を確認→新設の渡り廊下(屋根あり・壁なし)を通り、岩プロへ
 - ③【岩プロ】 震災の教訓を伝える展示、映像等を視聴、(展示室、シアターB)→振り返り研修(ミーティングルーム、イベントホール※要予約)